

近森病院附属看護学校 自己点検・自己評価表

(評価対象期間: 2020年4月1日～2021年3月31日、2021年度公開分)

大項目	中項目	コメント
1.教育目的		教育理念・教育目的は看護学校養成所指定規則に沿った内容であり整合性がある。また、本校の求める学生像やカリキュラムの考え方等においても3つのポリシーで明確に示している。教育理念、教育目的・目標と3つのポリシーを元にカリキュラムを構成しており、教員の具体的な教育活動の基盤となりシラバスとも連動し、教育活動の指針となっている。新カリキュラム構築の検討会を開催するたびに、教員に3つのポリシーや教育目的・目標等を説明していると、教員に知識が浸透し理解が深まってきているようである。アドミッションポリシーにおいては期待像と実際の入学生像が異なり十分な機能を果たしているとは言い難い現状がある。教育理念や教育目的・目標等の周知は次第に周知してきている。
2.教育目標		教育理念、教育目的・目標、ディプロマポリシーに明示している人物像と教育する具体的なカリキュラムやシラバス等との間は一貫しており、シラバスには教員の工夫した跡がみえる。現在は、新カリキュラムでのディプロマポリシーに示す人材像を念頭に具体的な教育の工夫や教育方法の開発に努めている。卒業後の継続教育の重要性については、重要性は認識しているが、本年度は卒業後の進路先から情報の収集を行っている段階であり、具体的な継続教育については検討中である。
3.教育課程経営	教育課程管理者の活動	学則・細則・履修規定・教育理念・本校の3つのポリシーなど学習の手引きにのせており教職員はいつでも確認できる。また、本校の教育理念に沿って授業計画や行事計画を立案しており、本校の教育目標達成のため教職員は一貫した活動を行っている。
	教育課程編成の考え方とその具体的な構成	本校の理念のもと教育活動を行っており、カリキュラム検討委員会を通じて本校の課題抽出も行い課題が解決に向けて改善を行っている。また、本校のポリシーに沿って入学時より卒業まで学生の学びに応じた教育を心がけている。
	科目、単元構成	科目・単元構成は厚生労働省より提示された3年課程の看護基礎教育の基本的な考え方を基本とし、本校の教育理念・教育目標に沿って、学生の成長に応じた科目の配置を行っている。 本校は母体病院が急性期から在宅までの医療の提供、チーム医療などを推進しており科目にも急性期看護、リハビリテーション、チーム医療などの科目構成をしており母体の病院の講師が講義を行っている。
	教育計画	学習の手引きにシラバスを載せており、始業時にはシラバスに沿って授業構成などを説明している。また、病気などで1日欠席をした場合に出席不足にならない様に集中講義などを最小限にしている。科目配列も学年を考慮した進捗にしている。
	教育課程評価の体系	看護師指定規則に準ずる内容である。単位互換に関しても可能であり学生には入学時に説明している。また、教育課程を評価する内容としてカリキュラム検討委員会で評価を行っている。また、教育課程に関しては教育課程編成委員会にてご意見をいただいている。倫理規定に関しては2020年度に新たに作成した。新カリキュラムの作成に向けて臨時実習指導者会議や学校運営会議などで説明を行いご意見をいただいている。
	教員の教育・研究活動の充実	教員の1年間当たりの授業時間数(実習を除く)は80時間を超えない範囲で考慮しており、クラス運営や実習指導などに係る時間も加味している。また、教員全員での学習会を開催したり、学会参加や研修などの必要経費は年間教育計画の中で整えられている。看護研究への取り組みなど教員のグループで行っており、各学年も複数の教員で担当、演習なども複数人で担当するため助け合って相互に成長をしている。各専門分野を踏まえた実習担当教員の配置を考慮しているが、母性看護学実習(助産師資格者)や小児看護学実習などは十分とは言えない。しかし、担当教員も学生の学びの質が保証されるように自己研鑽を行っている。
学生の看護実践体験の保証	本校の教育理念や教育目標を学習の手引きやパンフレットに明示しており、実習の打ち合わせの際に持参している。また、実習施設の指導者とは実習前に打ち合わせを行い学生が効果的に実習が行えるように毎回検討を行っている。また、2020年度は教員と実習指導者の役割を見直し、教務会議で教員に説明を行った。受け持ち患者に対しては事前に許可をいただき、同意書をいただいた上で実習をさせていただいている。実習前には、実習要綱(共通)にある看護師の倫理綱領を確認している。開校時より蓄積していたインシデントレポートを2020年度に集計を行い、今後分析を行う。学生にはインシデントレポートを参考とし指導を行っている。実習施設に対しての説明会を開催。その後、各施設ごとに打ち合わせの会、振り返りの会を毎回行っている。また、2019年は実習指導者会を開催し、学習を行った。(現在の若者の特徴、新カリについてなど)2020年度はコロナウィルスのため開催ができていない。	
4.教授学習評価過程	授業内容と教育過程との一貫性・看護学としての妥当性・授業内容間の関連と発展	「学習の手引き」のシラバス欄に授業内容等を明示し、教育課程との一貫性を確保している。授業間で重複する内容があった為、2022年度カリキュラム改訂に向けて科目間、各授業内容の整合性について調整中である。
	授業の展開過程	授業内容に応じて授業形態を工夫し教育効果を上げている。授業内容や学生の特徴に合わせ、アクティブラーニングを取り入れるなど、積極的に実践している。講義担当一覧及び実習施設の担当教員一覧にて、各教員の担当を示し、教員間の協力体制を明確にし、教員間で協力できる体制を整えている。実習打ち合わせ、実習振り返りの会、実習成果発表会、臨床指導者による講義など、それぞれの計画表に則り実施している。本年度は、関連部署と連携を図り新型コロナウイルス感染症対策を取ることができた。
	目標達成の評価とフィードバック	全教員が授業評価を実施でき、本年度は非常勤講師の授業評価も加わり、データ集計されている。今後はさらに評価内容を分析し、改善に役立てる必要がある。シラバスに成績評価を明示することで多様な評価が取り組めたが、評価方法の取り組みが改善しているかどうかの分析をしていない。今後は状況のデータ化、分析、対策、評価のPDCAサイクルを回していきながらシステム構築につなげる必要がある。また、シラバスに示した評価基準と方法を用いて評価することで公平性を保っている。
	学習への動機づけと支援	シラバスの提示や指導、シラバスが学習の動機付けと支援になるよう、学校全体が統一して行っている。2020年度本校の退学率は3.1%であり、昨年度の4%と比較しても減少しており、退学率の低減が図れている。
5.経営、管理過程	設置者の意思・指針	設置者が学校設立時に開校の趣旨を明記していると通りの考え方で学校経営を行っている。管理者と設置者の考えには一貫性があり、設置者の意思を尊重した運営を行っている。管理者は教育理念・教育目的への考え方を明示している。設置者の意思のもとに管理者は学校運営を行っているので一貫性がある。教職員は学校長便りや学校運営会議で設置者や管理者の考え方を理解している。
	組織体制	意思決定は各委員会で具体的事項を協議し、学校運営に関わる重要事項は学校運営会議にて審議している。学校運営会議には教職員が参加して審議できる様に整備している。決定事項は議事録を作成して、議事録を周知できるように整えられている。学校は指定規則に求められる人員配置、設備、図書、規程等を基準に学校運営を行っている。
	財務基盤	財務情報について決算を行い、財務情報をホームページにて公開している。教職員へどのような財政基盤によって成り立っているかを折に触れ、予算・決算等を説明している。予算・収支計画は学校運営会議にて審議、承認した上で予算計画書をもとに収支を行っている。

近森病院附属看護学校 自己点検・自己評価表

(評価対象期間: 2020年4月1日～2021年3月31日、2021年度公開分)

大項目	中項目	コメント
5経営、管理過程	施設整備	学習・教育環境の整備を心がけている。業務効率化の為、セキュリティを考慮した学内ネットワークを構築している。施設整備計画を作成している。火災及び自然災害に対する体制については防災マニュアルを整備、本年度は安否確認システムでの通知訓練を実施した。学内に情報システムを整備し業務効率化を図っている。
	学生生活の支援	入学後に学修継続ができる支援体制として教員によるアドバイザー制度を導入し、学習面、生活上の相談・支援を行っている。また、1年次から、段階を踏んで国家試験対策を実施している。本年度より数学、英語が苦手な学生を対象に特別補講を行っている。学生の経済的負担の軽減する為、各種奨学金や高等教育修学支援、専門実践教育訓練給付制度を用意している。
	情報提供	入学式・卒業式などの年間行事をホームページ等から情報発信を行っている。保護者への情報提供も必要に応じて行っている。受験生への広報活動として、県内の高校を訪問して進路指導教員へ本校をアピールしている。また、遠方の学校には資料郵送をしている。入学希望者にはオープンキャンパスで学校紹介や受験ガイダンス、看護技術体験を行い、本校の情報提供をしている。社会的説明責任としてパンフレット・ホームページにアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを掲載している。
	将来構想	将来構想のもとに、長期計画、短期計画、年間計画を立案している。自己点検・自己評価委員会にて自己評価を行い、学校関係者評価委員会にて自己評価を点検して頂いている。
	自己評価	自己評価の意味と目的は規約に整備し、その規約に基づいて自己点検・自己評価を実施している。自己点検・自己評価を実施後は学校運営会議に報告、学校運営にフィードバックするようにしている。ホームページにて自己点検・自己評価を公開している。
6入学・広報活動	入学	入学試験実施規程に基づいて入学者選抜を行っている。入学者状況については入学試験委員会で検証して次年度の入学者選抜方法につなげている。
	広報活動	毎年、広報計画をたてて広報活動を展開して入学生数の確保を心がけている。広報活動にはパンフレットや学生募集要項などを使い、入学希望者へはオープンキャンパスで学校紹介、受験ガイダンス、看護技術体験、個別相談などの時間を設けて説明を行っている。本年度のパンフレットから卒業生の就職状況・進学先の情報も掲載している。
7卒業・就業・進学		卒業時の到達状況調査は卒業学年を対象に実施しており、本年度も4期生の集計は終了した。今後は1～4期生の分析を行うことで課題を明確にし、授業計画に反映させていく。本年度は、コロナ禍の影響で同窓会の開催や就職先の全訪問ができなかった。その中でも、同窓会役員とは連絡を取り、継続した関わりを行った。また、就職先への訪問も状況を見ながら可能な範囲で実施し、来年度に向けて礎を築くことができた。新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着き次第、課題である卒業生の活動状況や就職先との連携を推し進めていく。
8地域社会活動	地域社会	学校の周辺地域の情報は地元の自治会を通して得ているが、行事は概ね土日開催であるため参加できていない。これまでは学校の行事に地元住民の方の参加はあったが、本年度はコロナ禍であり学園祭等も中止となり、地元地域との交流ができなかった。高知県内の実習病院との交流や教職員の高校への出前講義、高知県下の行事へのボランティア参加等も非常に少なかった。しかし、本年度は、職業実践専門課程であることの制度や教育訓練給付金制度を活用する学生が多数あり、ホームページや広報活動等を通して地域社会への知名度が上がっていると考えられる。
9.研究		前年度と同様の教員研修や取り組む研究計画を立てたが、コロナ禍であり教育活動への比重が大きく研究活動に占める時間数が少なくなった。Webでの研修には多くの教員が参加したが学会発表の場が少なくなり機会を失った。